

門外不出秘蔵の日本髪に被縛女性の写真本誌のために御提供頂いた。

○この様に列挙してみると、二十四頁の口絵や、入りきらなくなるので頭痛鉢巻、嬉しい悲鳴というところ。

○松井籟子氏の「私の求めた男」と鬼山絢策氏の「痴迷」は七月号で完結するので八月号からは、各々読切物を掲載することになっているが、既に編集部へ到着した作品は、松井籟子作「蒼朽ちて」、鬼山絢策作「学者大」の二篇。

○口絵に好評噴々の畔亭数久画伯は次々と新しい境地の開拓に目ざましい活躍を続けていられるが、次号の呼物は戯文、「回廊」、(駿河問の奔放な飛躍) 画集「礎」「股裂き」の密画、これは作者の自信作、尚その外に「水葬」と「豹」が続く由、秘中の秘は八月号のおたのしみ。(S)

短 信 往 来

○美しい女性に苛めてほしいという希望者が沢山あるので、今度条件を附して男性マゾモデルを初めて誌上に募集された。応募第一番は果して誰か。

○瘦身美貌の春日ルミ嬢が手ぐすねをひいて、苛められたいという男性を待っているのを、切て、いよいよ撮映開始となれば、どういふ場面が展開されるか見物である。

○何にしろサジストを主任(サジストという言葉は編集部が悪童が教えたらしいところがある)書店で雑誌を見て堂々名乗りを上げてのり込んできた心臓の持主、芳紀正に二十五才、

○従つて被虐モデルの方も一応年令二十五才と制限を加えたが、美男子であつたら三十才迄はOKというのだから凄じい！ 我と思わん勇士は名乗りを上げ給え！

○但し、彼女の意のままに進行させて貰うのだから、ひどい事をされても知りませんヨ、怖い人は最初から志願しない方が為ですネ、

○「侯志津子さんの「魔觸」書き直しの原稿も、危い危い、発禁物だ、とうとう七月号に間に合わなかつたのは残念

念至極、貴女を男性だと思つてゐる読者が多いといつてやつたら、わざわざスナツプ写真を送つてきた。但書にいわく「美人でしよう？」だつて。

○彼女の心臓にはかねがね一同毒氣に当てられてゐるので平氣――。

○弾圧だ、言論出版に対する圧迫だ、と騒ぎ立てるけれど、結局、百円で面白い本が読めなくなるからでしょう。なんて皮肉屋のさへすり、さもありなん、一晩一本(二万円デス)出してごらん。ちよつと、そこらで見られんものを見せてくれるから。

○或る強姦致死事件の現場遺留品の中に、Fという雑誌があつたとか、なかつたとか、或るオツサンが云つていたそれで、君達の雑誌もやめておけ、だつてサ、切腹を研究すると、切腹自殺者が増えるかもしれない。戦力なき軍隊、保安隊は血税を喰つても、戦争は

しないけれどもネ。

○有る事、ない事を書き立てる新聞のニュース、一恋の教授、人妻と墮落(あれはサド公とマゾツホの流れをくむ変質者)と。馬鹿らしい。自分こそノーマルのノーマルだと思つてゐる奴の方がナンボか胸糞わるい。

○強盗殺人、変質者の行為、みんな雑誌のせいにしてやる、戦時中は犯罪が一つも行われないような顔つきの男が又もや、うろろろしたしたので用心しなきゃいかん。

○京大の某教授の言う「近頃の学生は答案にも、前段、後段と書くところを前戯、後戯と書き誤る、恐るべし、風俗雑誌の影響」とその尻馬に乗つた獨善居士の論議委員とかいう代物、「知つてやれば厚顔、知らねば無智哀れむべし」と、そうじゃないんだヨ、お前達が、からかわれてゐるんだ。(辻)

K K 通信 第 20 号

昭和廿九年五月一日発行 (毎月一回一日発行)
発行人 吉 田 稔 編集人 箕 田 京 二
発行所 大阪府堺区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定 価 二十円 (振替口座大阪三四九五六番)

第 20 号

(毎月1日1回発行)
昭和29年5月1日発行
昭和28年4月17日
第3種郵便物認可
発行所 曙 書 房
定価 一部 20円



女性の責の中で緊縛姿態の美しさといふものは、ポーズに変化を求められるという事実は末端的なものであつて、最も重要にして且つ最終的なものはSEXに関連するものであらうと考える。即ち、あくまでもマゾヒスティックであることが要求される。絵としての美しさ、絵画的な美、ファンタスティックな美といふものも、勿論見逃すことのない要諦ではあるが

読 者 論 壇

少くとも被虐趣味の男性にとつては、苦痛、羞恥、陶酔、快楽の表現がないことには洵に不満という外はない。余りにファンタスティックに走りすぎると、現実から遊離し過ぎて、折角女

体に縄を掛けながら、真に迫つた感情を受けとれないのは遺憾である。

苦痛表現のポイントを要約すれば苦痛はあく迄肉体的な苦痛でなければならず、それが為には緊縛による方法が

被縛女体の美

加 賀 美

最適である。緊縛による苦痛は、集中的な苦痛と全般的な苦痛とに分れるがこの両者を併用することによつて一層効果を高めることが出来る。しかも、縛り方は、常態より変態であることが

此の際必要である。

女性緊縛の際、足首とか、後手、太股、細腰とかをギリギリと括ることは部分的な緊縛で、これでも耐え難い苦痛を与えるものであるが、更に縄が全身にまとわりつく、所謂雁字搦目という縛り方、例えば小包の荷造りの時のようなやり方であるが、これを前記の部分的な緊縛と併用することによつて効果を

淳

を挙げる事が出来る。

後手にして柱に縛るといふ普通の縛り方も決して悪くはないが、より変つた方法が苦痛を増すといつた点で効果的であるのは疑う余地がない。片足吊り、海老責め、或はアクロバティック

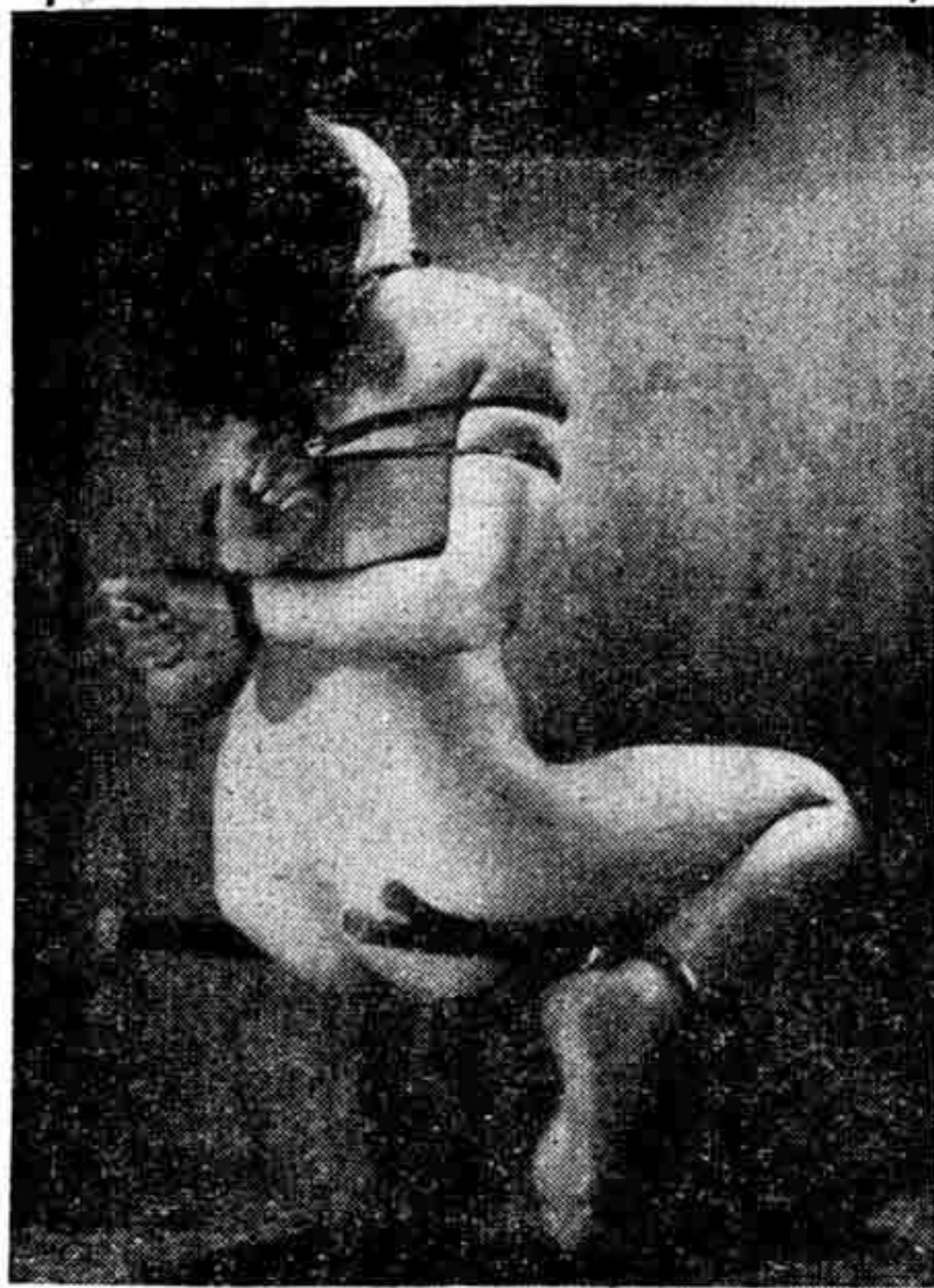
ダンサーのやる曲芸的なポーズの縛り等は緊縛美の表現としては最も苦痛を表し得ていゝと思う。

手首も紫色になる程の緊縛、二の腕に廻された縄と縄との間はむくりと飛びだして、その張りきつた皮膚の盛り上りを一寸、針の先で突けば血が噴き出しそうな有様、こういった緊縛感

は見る者をして異様なショックを与えるであらう。実際、私は緊縛された女性の美しさといふものを、こういう肉体的な苦痛の間に発見するのであるが然し、従来誌上に発表された論調を讀むと、精神的な苦痛、即ち凌辱といった方向へ女の責を持つてゆくのが多かつた。そして、それに対する同調者も極めて多い事を知つた。従つて、この私の一文が、それ等の人達から反駁されるであらう事は想像にかたくない。

又、私自身としても理のある所は堂々と処説を述べて批評して頂きたいものだと願つてゐる。女の責は肉体的苦痛を与えることを前提としてゐることを述べつゝ、愚説に対する反駁を期待する。

椅子責めの中



のおだやかな書きぶりが出来なかつたものか、懷疑主義者にされたのなんのと大きな事を並べたてゝおいて扱つて、というところ、調子もせず、発禁だなんて書きとぼす。

○沼氏の言じゃないが、一事が万事鉄氏の書くものに対して信用がおけなくなるハツタリはハツタリでも、時と場合によつていゝが、少くともシツポを掴まれないような書き方をしてほしいものだ。編集長が大人げないからやめておくといい

うのを、我々が無理にあの反撃文を書かしてしまつた。

○こんな事は皆さんに、余り興味はないだろうから、これ位にしておいて、七月号の予告に一寸誤植があつたのでお詫びしておく、足台になつた少年(久留木栄)は、若い女の足に狂う(佐津真帆)の誤り。尚、六月号誌上に予告したもの以外に、あるマゾ男の告白(才昭吾) 血染めの舞台——女座長の切腹物語——(翠芳元) 眼帯とマスク(狩井麗作)等の興味ある告白や小説を掲載する予定。

○尚、七月号口絵では、「女斗美」(女レスリング)「縛つて猿ぐつわをする迄」(縋帯を用いた縛り、その他各種の優美妖艶な縛りの外、特に沼正三氏のプランになるマゾヒスティック・フォト数十枚を作成したので、誌上に紹介の上、今後更に新しいモデルによつて完璧の作品を完成すべく努力したい。

○男性を苛めたくつて仕方がないという春日ルミ嬢の全面的な協力を得たので今後のマゾ・フォトは刮目すべきものがあるだろう。○伊藤晴雨翁から、

私の寶

升岡金吉



隣席の女性は私の好む顔立ちをした娘であつた。映画「女間者秘聞」のクライマックス、間者と見破られた嵯峨美智子の責め場である。後手に縛られて引据えられた姿の可憐さ、私の体は小刻みに震えてきた。ローソクの熱い液が、白い足の傷口へしたたる、「うらむ……」苦悶の声が美智子の口から洩れる。

場内は無人の境を思わせる静けさ、然し何かしら、押しつけられるような緊迫感が一杯に漲っている……、若いアベツクは手を握り合つて息をつめている事だろう、サドもマゾも眼を血走らせて画面に凝り付けられているであろう。私は隣席を注意した、その娘はこわばつた表情で唇を半ば開き、あえぎ乍ら一心に画面に見入つてい

る。

私は嬉しくなつた。美人の責め場がこれ程多くの人々の心を捉えているのだ。場内一杯の観客が、自由を奪われ、拷問を受けている女の姿態からにじみ出る、異常な美しさに打たれている、緊縛美を求めるのは私だけでは無かつたのだ。

スクリーンに次のシーンが映じた時

ホツとした様なさわめきが起り、方々で席を立つ人が多かつた。この責め場を見る為と同じ映画を一度観た人々……確かにそうだ、と私は思った。現に隣席の例の娘もそうなのだ、マゾかサドか？ この疑問は大きな魅力となつて私をして、彼女を尾行せしめる結果となつて現れた。

商店街を過ぎ、ゴミゴミした裏町を通り抜け、焼け跡の空地を越し、貧弱な住宅街の入口で、つと彼女は立ち止つてクルリと振り向いた。「しまつた！」と思つたがもう遅い。五六軒先の家の前で子供達が遊んでいる。

「何か私に御用ですの？」

彼女はしばらく私を眺め廻してからハッキリした口調で質した。尾行するという非礼をなじつていいる眼が私をタチタチとさせた。

「失礼しました、貴女が余り美しいのでついフラフラとついて来てしまつたのですが……どうも済みませんでした。けれど別に僕は不良じゃありませんからその点だけは信じて下さい。失礼ついでと云つちや何ですが、つい

【編集部便り】

○皆さん、御機嫌如何ですか、「花も嵐も踏み越えて」新編集案がつつらに封切されていますが、六月号の完成に忙殺されている間に、三日見ぬ間の様でお花見の雑踏に喧嘩沙汰も昨日の事のようになつてしまいました。

○桜といえは、雨後の筍のように続出した類似誌の散りざわもあつさりした

もんですね、本誌六月号は予定通り皆様のお手元へ届けることが出来て、重荷を下しています。予約金はおつたが雑誌は出ない、というようなどこかの雑誌社のようなチャランポランはやりませんから先々御安心下さい。

○雨の三日も降れば刃物いらすで人を殺せることもあるそうですが、風俗雑誌置すにや道真はいらぬ、発禁の二回

も続けはよい、という事になりますかね口惜しければ休刊しなさい。

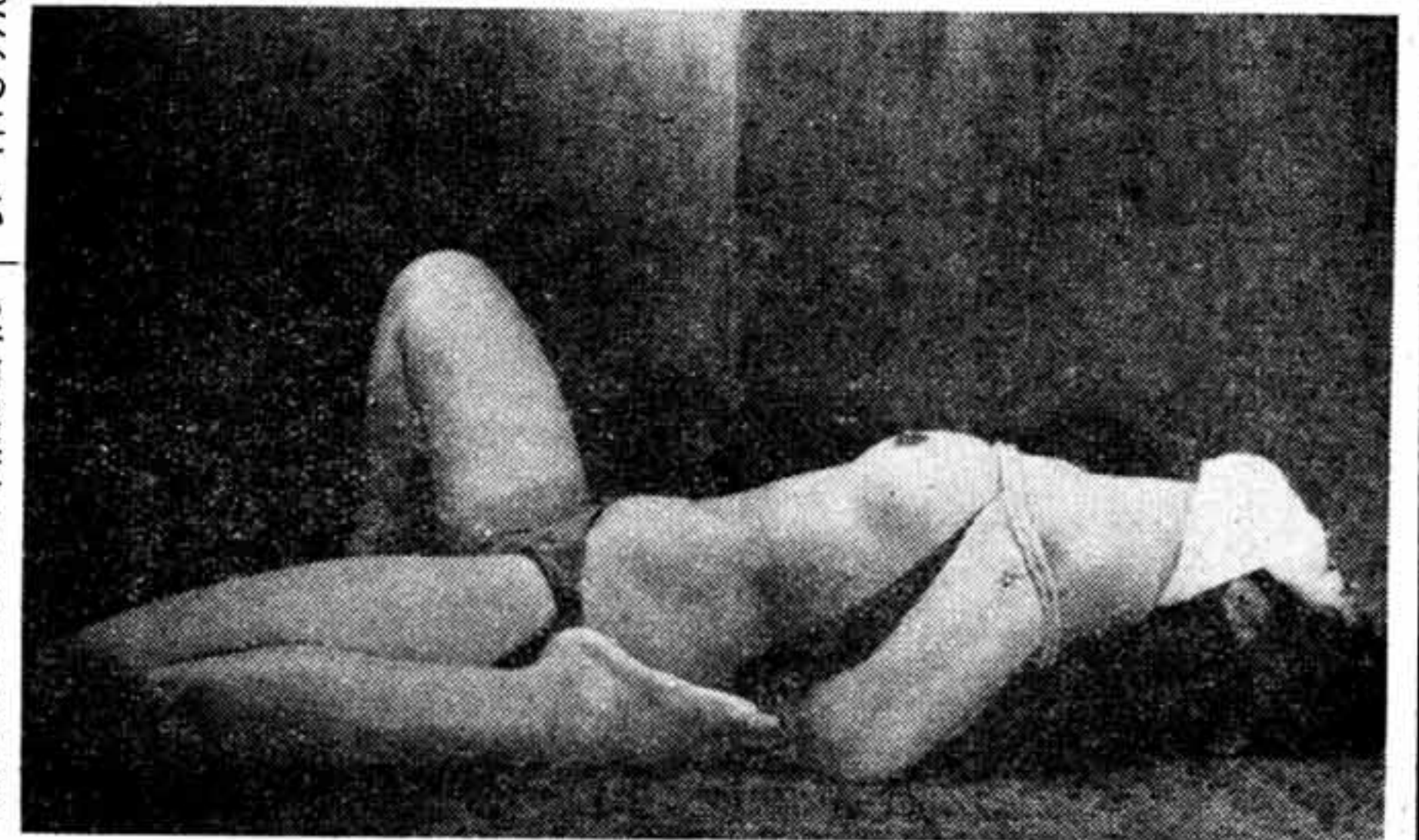
○発禁といえは、高橋大先生の言によると、発禁の報道にはウンが多いそうだ、「編集責任者が発禁



中のめわ責つ子ぐ梯(上)
猿(下)

も押収もされなかつた」というのだから本当だろう。現在

の新聞の報道にウソの多いのは、驚き桃の木である。同じ事件を報道した



でにお宅送らせて頂けませんか？」私は卒直に詫言た。

「まあ……フツフ……正直な方、でも私の家ついそこなんですから……」彼女は私が悪人でないことを認めてくれたのか怒りもせずそう答えた。

これが縁というのか、以後彼女と親しく交際するキツカケとなつた。私は誠に幸福な男になれた。彼女には両親はなく、妹と弟が一人づつあつた。しばらくつき合う内に親密の度が加わり、例の映画の時も、スクリーンのヒロインに我が身を置替えてウツトリしていたと正直に話してくれ、私の要求に顔を赤らめ乍らも承諾の意を現すようになった。

多年の宿望が実現した時、私はまこと云い様のない歓喜に酔酩れた。現実私に私の目の前に、私の手で縛り上げた可憐な乙女が、恥らいつと飲びに消え入らんばかりの風情で、身もたえていてる。巧まずして描き出される一幅の美人画。両腕を高々と背に吊上げ、フツクラした白い滑らかな、それでいてビチビチした腕から、美事な隆起を

見せている胸へ掛けて、深い溝を掘つて細引がその柔肌を喰ひ込んでいる姿は、その女体から発散される特有の芳香と共に、私の心を天国に導いてくれるのだつた。

だが人間の欲望は絶えず上昇する。緊縛は彼女の肉体に刺激を与え、マゾの血を湧き立たせたのであろう。

「もつともつと強く縛つて……」彼女は瞳に哀願の色をこめて訴える様になつた。私はありとあらゆる縛り方をしてみた、然しどんな苦しい縛りをも彼女は甘んじて受けた。彼女の肌には、縦横に細い痕がついた。

乙女の大切な肌をこんなになる迄自分に提供してくれる、私は泣きたい程の愛情が大きな固りになつて、腹の底からこみ上げてくる様に感じた。今迄とは別な欲望がサク裂した。いきなり半裸で縛られている彼女を抱きしめて唇を合した。縛られる事を彼女が承諾してから二ヶ月余り、始めて抱きしめて、始めて触れた花の唇、それは甘い香りに満ちていた。

彼女は身をくねらせて、私の唇を受

◎類似誌没落◎

日本人は模倣性に長ずるといふ、特に出版界に於いては、その時の花形雑誌を巧みに模倣することは、敏腕家とされている位である。それかあらぬか「夫婦生活」が好評といえは、忽ち群小十数種の夫婦物が続出して、夫婦物時代を招来したことがあつた。然し獨創性のない模倣雑誌は泡沫のように消え去り、今や本家の「夫婦生活」がひとり存しているだけである。「平凡」にして然り、模倣誌は軽く退けられて今や僅かに「明星」がその莫大な赤字に苦しみ乍らも、余喘を保っているに過ぎない。さて、「チャタレー夫人の恋人」のニセ版を作つて問題となつた模倣専門の雑誌社が、創刊号以来極めて好評だつた「読物○○○」を真似て

日本人は模倣性に長ずるといふ、特に出版界に於いては、その時の花形雑誌を巧みに模倣することは、敏腕家とされている位である。それかあらぬか

の姿。かく迄美しいものがこの世に二つとあるだろうか、私は夢幻の境地にある想いで、この美の極致にみとれていた。

「小説○○○」を作つた時は、御本尊が発行不振で廃刊になつていたという笑うべき悲劇があつた位である。

昨年夏、小誌の好評を真似て、そつくりニセた某誌が出た。勿論、編集のやり方には専売特許も著作権のようなものはないのだから、真似る事自体は一向に差支えないが、奇譚クラブそつくりの雑誌を作つたから買つてくれと取次店へ売り込む一方、余りにも獨創性を欠除した真似方に気がさした編集者は、小誌を類似誌呼ばわりして、その十一月号誌上に於て、ある事ない事を並べ立て、悪口罵倒の限りを盡くした。

小誌としては、どうせ廃刊の運命にある某誌の引かれ者の小唄に対して正面きつて反駁するのも、大人気ないと放任しておいたところ、定価を上げた

或る提唱

(奇く編集担当者及び一般読者に対して)

横 田 甚 三

編集部御一同様の御健斗のこと、大いに感謝して居ります。小生の書架にある「奇く」も既に三十冊を数えようとして居ります。先日、整理して他の雑誌類は相当、屑屋に下けましたが「奇く」だけは、一冊も手離しませんでした。「奇く」が読者の書架として豊富な資料を内蔵していることを感ずるからです、この資料性を失う時、同時に一般的な短命が襲ってくるのではないのでしょうか。

就いては、小生の提唱した点を、二三申上げ、御参考に使いたいと思ひます。何といつても問題は取締りに関することです。「良民」としての範囲に於る編集「云々は公刊誌上に宣伝する文としてのみ了解できることであつてそれが真の編集方針であるとは推察できませんし、もしそれが正しいと信ず

るなら不可解なこと、思ひます。

特殊雑誌である以上、取締陣の信用を得ること、読者の声望に応えることは、万事復古調の現在両立できないことと明らかです。幸いにして、編集部に於かれては独自の見解のもとに御活躍下さっていることは容易に察せられ心強く思つて居ります。

これに対し、小生は次の様に考えます。先ず「奇く」の読者組織を区分すること。

第一の層、公刊誌の範囲で同好、同好者の入門的に考えること。

第二の層、「KK通信」正会員組織への足掛かりに考えること。

第三の層、正会員として資料の保管研究のグループとして考

り下げたり、合併号、休刊、そして、あとはうやむやになつてしまつた。

「諸君だけ諸君で、都合が悪くなればやめるだけ」と割りきつて居る編集者。小誌が創刊七周年記念の懸賞原稿募集とすれば、すぐそのあとから、賞金を倍にしたのハツタリ原稿募集をやる。小誌がさうやから、真面目に入選作品を発表しているのにひきかえ、あとは野となれ、山となれ、どう

えること。

アブ層の資料は容易に集め難いもので絶対に二、三の人間の頭でつくり得るものではありません。「奇く」がこれまで立派に組織され、そして集つてくる投稿、資料が、発表もされずに土中に埋もれてしまふのかと思つて何とも云えぬ焦燥を感じます。それ等の資料が学問的に活用されるために、特別会員中、特別正会員として貴編集部が信用出来る人を選挙摘出して案内状を出し、資料中より貴重にして公刊不可能なもの、または発表した文中、原文を必要とするもの、保管を、印刷し

なつて居るのか、さつぱりわけがわからない。

他人のやる事を気にやむ必要はないが、こちらが普通にやつていても、そんなやり方の雑誌があると、雑誌全体に対する読者の信用がなくなる。

所詮、雑誌は猿マネでは長続きしない。特異雑誌では尚更と痛感。

(編集部K・S生)

依頼する。正会員費を以てこれを運営し、明確な会則を附し違反せしめないこと。

以上の様なことができないものでしょうか、小生には可能と考えられますが……。「読者案内が売春仲介と判断された」ことは私にもうなすけますもし本心に悩める者が他に対象を求めるならば個人的に紹介してやるべきで編集上のものとして採り上げるべきではないと思ひますが、この問題も以上の様な組織があれば、健全にして円滑な交歓が可能になる様に思ひます。

が出て居る。唯掛縄をもう少し省略して欲しかつた。以下号を追つての傑作は「逆さ吊り」などモデル嬢の苦痛も誠に御苦勞ながら立派な出来だと感心した。読物としては古川裕子の毎号連続夜はなが最もまよつたよいものと思つた。次に私の好きな責めの方法に就いて書いてみたい、責められる者は女子、全裸に近いポーズとする、下向きに寝かす。後高小手に縛る。足は股間と膝の中間部太腿を縛る。以上に依る準備のもとに之から行う方法はT字型棒責めと名付けた。道真は廊下等を掃除するT字型になつて居る雑巾ばさみ、又は少し柄の長いつるはし、又は肩のいかつた座敷ボーキ等であり度々行うとすれば竹、又は木製を以てT字型の強いものを作つても差し支えないが、私のモットーとしてなるべく有り合せのものを使用したい。責めの順序は右の様なものを前股間より差し込みT字部を腰にしつかりと押さえると同時に下向きにさせ、棒先を徐々に背中に向つて押さへ、最後に手首繩に直結する。之の結果に於て腹皮は上

下に極度に緊張、尾骨は砕け、大腸骨は今にも折れるかと思ふ苦痛となり、背骨は逆に弓なりになり、胸部、両腕の緊張に対しても亦、この上もなく到底長時間は耐え難い責めである。右に依つて是非一度特写の人数を賜り次号に掲載して戴き度い。亦之を基本とした種々のアイデアを御誌プロデュサーの方々に智恵をしばつて戴きたい。福岡市内の書店ではなかなか求め難いのもつと増刷の上、店頭で簡単に買える様にして戴きたい。

(福岡・YI生)

私はかねてから貴誌の緊縛の女性の写真乃至絵に大きな関心を寄せていますが、少々不満なのは、大胆に真正面から写したものが少いことです。ポーズの性質上困難なのかも知れませんがズロースを着けていれば可能なのではないでしょうか。ビッチリと股にゴムの食入つた白いズロースなら、裸体美を決して損うものではないと思ひます。こうして、例えば椅子に縛られた女性などの正面からとつた写真、又は絵を

載せて頂けたら、どんなに嬉しいか分りません。ぜひお願いいたします。

(東京・中田生)

私は、毎月「奇く」以外の種々な雑誌も購読致して居りますが、各誌共に總天然色写真による責めを發表致しません、何故でしょうか。私には解せないのです。「奇く」によつて封切らせで戴けないものでしょうか。と勝手に切望して居るのは、私一人では無いと思ひます。總天然色写真になると、大変興奮が強く我々ファンの鼓動が全身に波打つ事と思ひます。私は、夏の或る夜、赤い花模様の腰巻一枚の姉の姿を一目見てから、腰巻に対して特に興奮を覚える様になり、留守には赤やピンクの腰巻を自分の腰に巻いて、姉の床で寝たのも一度や二度ではありませんが。私はこの様に腰巻が大好きです。ので、是非共貴誌に於て總天然色の責め(腰巻をする事)の写真を製作される事を、切にお願い申し上げます。

(岩手県・H・M生)

私は、五尺一寸三貫、四十二才の男子です。社会的には恵まれて居りますが、或事情の為家族とは別居中にて妻に依つては満され得ぬものを切望致して居ります。若い方に対する縛やくすり責を考へただけで血が騒ぎます。被縛の文獻等でもせめてもの慰めとしていますが、私の望をかなえて下さる方は御座いませんでしょうか。お便りをお待ち致します。(大阪市・TO生)

少年囚獄記は、私がサジストです。で常日頃よりやりたいと念願して居つた事で、大変興味深い記事でした。戦時の頃に若い丸刈頭の新兵を丸裸にして、絵の様に恥かしめ虐待する快楽を堪能して来ましたが、その情景が巧い文章と挿絵によつて生々として描き忘れ様とて忘れ得ぬ新兵虐めの快感が甦つて来ました。然し絵を見てからは、虐めるばかりで無く虐められたい云う気持ちが強くなつて来ました。虐めたり虐められたり相手があれば楽しさ百倍の人生ですね。

(兵庫・M・O生)

横田氏は熱心な方で、以前にも特別会員制についての御懇切なる御進言を頂いた事を記憶している。従来、個人的に信書を通じて御返事申し上げたことも三に止らないが、同様の御問合せなり、御難達なりが多数まわたり、一々御返事する暇もなく、実はこの際本誌六月号誌上において一括、御返事する考えで原稿も書いたのであるが、五月号の岡田芳夫氏の読者通信に対する回答の如く、当局に対する迎合とか弾圧に対する屈伏、或はそれに対するセスチュアのように誤解されると嫌なのでやめた。そしてそれとは別に横田氏の提唱にお答えすることにする。

奇譚クラブに対する文藝的な価値を認めて下さったのは有難いし、又私達も本誌の存在価値をそういつた方向に見出したいと常々願っている。取締の件については、従来「刑法に觸れない範囲内」では出版の自由は認められると理解していたのだが、法律に觸れない

或る提唱に答えて

(編集子)

い程度のもので、公刊誌として面白くないものは、とにかく「容疑」でやつつけるゾ、容疑を持たれるのがイヤなら、うんと自肅せよ、ということだ。これは「泣く兒と地頭には勝てぬ」とか「長い物には巻かれる」という諺を出すまでもなく、最終判決の如何に拘らず発禁になると困るので従わねばならない。然し、これについては他にも〇〇〇〇や〇〇〇があるじやないかという反論もあると思うが、それは一応おくと、横田氏の言に直接答えると、

少くとも私達は殊更取締の信用を得ようと媚態を示そうとは思わないし又、内容を根本的に転換しようとも思つていない。毎月発行される雑誌に容疑を持たれるようなことなく、しかも、読者の声望に応えたいと意欲している。否、応え得ると信じている。

次に読者組織の区分については全く同感だ。これは、編集部の手で詳細編

口絵のゲラ刷が送られてきた。觸ると手にインクの着きそうな割付紙の写真を見ながら、この記事を書いているのだが、この記事が皆さんの眼に入る頃は本誌も発売になつてゐる事だと思ふ。伊藤晴雨氏の良辨龍の狂女、毎号この口絵登頭の絵を見たい為には本誌を買ふ読者もあるとか、この絵は時候柄涼しい気分がする。直りは大してないが説明文の後半が誌面の都合でどうしても入らない。龍麗子さんの「椅子を用いた縛り」バックが黒なので、手で

◎六月号の楽屋裏◎

校正刷を見たまゝ

密な調査を完成しているのでそれを活用したい。只、呉々も申し上げたい事は、性急なやり方は必ず失敗するということだ。読者の中にはKK通信が二十号を迎えるのに、こんな状態ではないのかと思われる方もあるだろうし、又公開不能の原稿の問題もなんとかしろ、と云われる方も多い事と思う。そ

の気持はよく判る。だが、成算のない事をやつても、徒らに恥をかいただけだ。文藝的価値のある投稿絵画、写真、文章については慎重に整理保管している。これでも成算さえあれば、いつでも材料に困らないだけの準備は整えている。とにかく砂上の楼閣は見かけは華やかでも絶対に永続しない事を知つて頂きたい。

觸ることも出来ない。タイトルは贅文字で入れるためか開けてあつたのに、活字が入つてゐる。原画も美しいが縮小されているので更に引き緊つた感じである。毎号呼物の外国の絵と写真、校正もこれを見るのが楽しみであるが、こういった材料を集めるのは中々苦勞だろうと編集部で御察しする。今月は読者からのものとして「男性美」がのつてゐる。辻村隆氏の「縄の四十八手」のタイトルが落ちてゐるように思つたが、場所もないようなので、そ

会友通信



本誌五月号、多大の感激を以て拝読……それは畔亭氏の口絵です。特に全身刺青の女立腹は見事で、多年の願望を満された喜びで一杯です。欲をいえば正面から見せて頂きたかつた。他の三題も結構ですが、前回の「腰殺」の美事さにもつと濃縮なものを期待してしましたに、いささか失望した形です。中康先生の「腹切図画構成案」も折角あることですから、あれを畔亭先生の麗筆で実現して頂きたいものです。尚表情にもう少し苦痛を表してほしいと思います。亦田谷敬生氏の四月号十七例の詳細を是非次回に発表願います。「散紅葉」の時の挿画の様な画と共に、五月号梅田停次氏の挿画は佳良でした。川合伊都子氏、亀岡先生の作品の無かつた事は淋しいことです。是非続けて下さい……。(H生)

だきました。小生は縛られた手の表情にいつも注意して見て居ります。縛られた苦痛は手にもハッキリ表れねばなりません。この点絵の方には相当見受けられますが、写真には殆どその表情が表れていません。この処を今少し工夫していただきたいと思ひます。それから写真に全裸の処女の羞恥の表情をハッキリ出したものを見せていただきたい、稍未発達のお下髪の少女の縛られた姿、これを一度発表していただきたいと思ひます。

(出雲・春風恋太郎)

かに之迄渴望して居たものでありまして、出来得れば、あの様なモデルに使つて頂きたいと願ひして居ります。尚少し希望を云いますなれば、あの女性の服装はショーツパンツか水着の方が今一層の満足を我々に与えるものであらうと思われまふ。今後も続々とあの様な写真を載せて頂くなれば、一冊の楽しいアルバムが出来ると思ひます。それから御誌読物の読後感等も書き度いですが、余り長くなりますのでこの次に致します。

(富山県高岡市・TK生)

私は二十四年シベリヤより復員した四十才の者ですが、女がしり端折りて股も露わに洗濯してゐる時の様な姿に魅力を感じます。濃えん、豊満な肉体の若い女が和服姿で、裾を乱して抵抗力のない男に馬乗りになり、渾身の力で首を絞め、または大きな出力砲丁でトドメを刺さんとしてゐる様なところの絵なんかを発表して頂けませんか。号外まで出た、日大生殺しの実際は凄惨なものでしたでしよう、たゞ馬

乗りになつて最後のトドメを刺したのが母親ハマでなく妹の英子でしたら二人掛りの凄惨な処が描写出来るでしょう。こんなマニヤで困りますが、どうか宜敷く願ひします。(不一生)

責め的手段としては緊縛、吊し、鞭打ち等、種々の方法手段がある事は「奇ク」の号を追つて余すところなくプロデュサー氏の苦心が發送され、その度毎に拍手喝采に値するものも少なくない。だが私はその手段に就てたとえ遊戯にしろ、又強制にしても時間と技術と努力を要する様な緊縛方法は余り好まない。五月号の「一本の縄」は未完成な平凡な緊縛ではあるがポーズと云い表情と云い誠によく実感があるよいものと思つた。それはこの一枚の写真に依つて之から起る責めのアイデアに就ては全く無限の感があつたからである。次に私の好きな写真は十一月号の「野外の縛り」。「華しい」は素朴な縛りではあるが限らない愛着を感じた一月号の「台上の殉教者」なかなか良

さゝやかなパンフレット形式のものであります。KK通信も本号で第二千号を迎えました。線香花火的にやるのは華やかであります。地味にこつこつと毎月続けてゆくという事は、こういった機関誌では中々困難なものなのです。然しKK通信は会員の皆さまの御援助により、派手ではありませんが堅実な歩みを続けております。今後更に会員の皆さまの機関誌としての役目を十二分に果たすため、KK通信に掲載する読者論壇、手記、告白、会友通信編集に対する御意見、責めのアイデア、写真絵に対する希望、前号の批評アブノーマル界の情報等、特に全国の新聞雑誌に掲載されたアブ奇譚について御送稿下さるようお待ちしております。

●KK通信の旧号は第八号迄は売切です。尚第九号は残部僅少、第十号より第十九号迄、若干数宛保有しております。旧号は一部二十円、六回分百円にてお送りいたします。

◎KK会員の方々へ

えて振られている様な感じが、文中の主人公の如く次々と作品の発表をして貰いたいものだ。

「百字讃歌……思わす微笑の浮ぶ作品、現実には考えられない様なテーマだが、意気地のない男の迷惘、好感が持てる。

M・Sプレイ、半公判……共に告白

伊呂波仁補遺抄



五月号

(四四頁下段三行目) 吸わせ (同五行目) あそこまで吸わせたい (同六行目) 吸つて (同四行目) 裸に (同五行目) 裸に、陰毛の (四五頁上段一行目) 裸に (同五行目) 吸うわよ、両膝はさん (四六頁中段七行目) 全身、無ぜ (六九頁上段四行目) 舌、刺戟、快感を増す (同五行目) 立ち (同下段一行目) ペニスを口、大きさ (同

一四行目) ペニス (同六行目) 気に伸び出、雄偉 (同七行目) 呼吸、位に先の、口腔一ぱい (同八行目) パロスを含み (同九行目) 玉門から玉茎を迎え入れ (同二行目) 口淫 (同三行目) 性器 (七八頁中段二行目) 同義 (同二行目) 肉体的関係 (同下段三行目) 肉体的な関係 (八八頁下段二行目) 抱き合つて寝る、舌の先を (同四行目) ながら、そのしみ出る汁を (九六頁下段四行目) 拭きかた (同五行目) 拭かな (九七頁下段四行目) 濡れた接紙 (百六頁上段二行目) 下腹部から内股 (一一頁中段一行目) 股を開く (同三行目) 汚れ易 (同四行目) 内股を (二五九頁下

段一行目) の豊満な肢体 (同四行目) 觸れる女性 (同四行目) さくらされた金裸の美女 (二六〇頁上段二行目) 馬の機、慾望を満 (同下段二行目) 腰から (同五行目) 顔をうすめて接吻 (二六一頁上段二行目) 金裸に (二七五頁上段二行目) 女の羞恥心 (同中段三行目) 仰向けに大の字に押え (同四行目) はがされて (同五行目) 徐々に白い肌が (同六行目) 見事に隆起した双つの乳房 (同七行目) プルンと躍り出した時の美しさ (同二行目) ように二本の足が宙に躍る (同六行目) (肌の弾力を象) (同八行目) 好奇の男の眼に集 (同下段一行目) 娘が乳房が検査して (以上)

時代感覚のずれと

和装美

白金紅次



美学的見地から、又多くの文獻などから暫らく離れて極く平面的に論議するとKK通信第十九号の腰巻かパンテイか問題は、その帰着する処は要するに時代に伴う感覚のずれに在ると思ひます。長い間東亜の島國に鎖國の状態で閉じ込められていた日本が文化の交流もなく歌麿を生んで柳に楚々とした浮世絵を唯一の眼の娯楽とした庶民階級が若し西歐のパンテイを輸入したとしたら当時の風潮は変つていたに違ひありません。ですから恐らく今更腰巻かパンテイかの討論は繰返えされなかつたことでしょう。私は今の読者階級の年令を假りに奇譚クラブに取つて見ると若い青年層に中老層層の割合ではないかと考えております。斯う

した事は雑誌の編集販売に當つては大切なことではそれは専門分野にお任せするとして拙て雑誌名が健全なアブ型でないかという「奇譚クラブ」と名乗つてゐる以上全面的に裸婦パンテイオンリと云う訳には行かないでしょう。私は裸婦パンテイを排斥しようとは思つておりません。それはそれとして或る種の思惑があることではようから……しかし幸いな事には奇譚にふさわしいキモノと云うものが現存しているのです。このキモノを極く古典的に又近代的に駆使して女性から流れ出るエロティシズムを汲み取るうと云う意欲——これが腰巻かパンテイかの分れ目です。私は私自身の考え方から奇クの創刊以来欠番号は古本屋を採すなどし

のまゝにして置く。原稿をそつくり印刷取りでは刷れているのに、本刷りにかけると、何故かのように不鮮明になるのだらう。折角の辻村氏の苦心に對して一寸気の毒な氣もする。昨事数久さんの画集は、活字がないので校正の要なし、昨事数久画集と五号ゴジツクで入れてみる。

本文では懸賞入選作品の「私のモデル」ペテラン飛田良二氏の快心作、飛田氏は会社の社長さんとか聞いているが、よくこれだけのものを余暇に書かれたものだと思ふ。挿絵の下絵も自分で書かれたとか。校正しつゝ小説に酔つていては叱られる。私はマゾでもサドでもないから、同じ入選作の「美しい暴君」も面白かつた。大体私のようなノーマルな者に雑誌の批評をさせたなら公平なのだが、と自惚れたりしてゐる。吾妻新氏の海外サディズム雑誌の「服装の利用」は豊富な資料と適確な説明で、私の様な愚鈍な者にもよくわかる。この方の文字は書き慣れていて、はつきりと書かれているので大助かり。名は出せないが、慣れた方

はどうか達筆過ぎて校正に苦しみられる事が多い。沼正三氏の原稿もはつきりして見やすい。只、誤植が多いといつも編集長から叱られるので、そういう人のは特に気をつけるのだが、やはり凡人の常で、「校正恐るべし」の弊はどうしても逃れそうにもない。

挿絵がデラ刷で十分刷られていない為、ひつくり返つたまま刷られて気がついた時には、何連かの紙を無駄にしたとかで、普通にいつてあたりまえ、一つ間違つたら大変なことになるので、いつもひやくしてゐる。この頃はだから、校正の前は十分にはつきり判るよう刷つて貰うことにしている。

「特集告白」の作品は、原稿を書ききれない筆でたどろろしいが、又それだけに真実感に溢れている。まあ、わからない字も、前後の文から判断してわかる程度のものが多かったので大して苦にならない。只、校正で何度も読んでみると、今度刷り上げた新刊を手にとつても、なんだか、すつと以前の号を見ているようで、変な氣持である。

(校正子)

五月号 迷評



外山 雄二

一声で追つて出る。スカレットのセー
タに黒のタイツのスカートの下の小
じんまりした臀を振り立て、丸い踵を
突上げて工場の中、さらに物置の中へ
逃げ込むのを見て、既に感じはしてい
たが追っている僕へ扉の残を形式的に
も押さずともせず、むしろの上に俯伏
せに倒れ両手で顔を覆っている。

この初子、全く下卑娘の感情体その
ものである。

僕は扉に一応錠を下ろしてそばに立
ち、ここまで事が来るとかくの文句
は無用、荒縄一本掴むとすぐに後手縛
り、縛つて終つた頃、

「ワテ罪人……」

「そうだよ」

「しらん！」

そんな事を云つてゐる間にすでに僕
の手は、ビシッビシッと片手ずつ臀の
平手打！

「イヤンイヤン」

尻尾をつかまれた魚の様に両手背中
で突張りながら、あごを立てパーマを
振り乍ら、もたえるのも形式的であ
る。

× × × × ×

出版物の取締りに関し激しくその是
非が論ぜられ、一方に於て現実には数種
の雑誌が、一夜の内にその姿を店頭か
ら消すという状態の中に、少しの遅滞
もなく奇譚クラブ五月号が、書店に飾
られた、予定通り出版されるものかど
うか、心密かに心配していただけに、
手に取つた時の嬉しさを一入深く感じ
たのは小生のみではあるまいと思う。

先ず編集部のお苦勞と勇断に、心から
敬意を表し感謝の意を捧げるものであ
る。

さてその五月号から気付いた点を拾
つてみる。尤も「迷評」なんだから、
無礼な点があつてもお赦しありたい。

口絵の中では「車を轆く小馬」が目
を惹いた、外国誌の紹介であるが、い
くら眺めても、飽きを感じないのはさ

すがだと思ふ。観た目のスマートさ許
りでなく洋の東西を問わず、同好の
士の多く居ることを、直接に我々に知
らしめ、文句なしに何とも云えぬ安心
感と力強さを与えてくれるからだろう
が、今後も引続きこの企画は実行して
戴き度い。

読物の中では大体次の様なものだ。
少年囚獄記は、筆者の偽らざる体
験記だけに、生々しい感じ、自分が活
字を追うより、想出話として直接聞か
せて貰つたら、さぞ興味も倍加するこ
とだろう。

悪の部屋……これは又女流作家に
似ぬ奔放さ、一章毎に話が変つてい
るテンポが早くていいが、一寸面喰う、
一人で幻想し、一人でつぶやいている
感じ。

感情教育……手慣れた流暢な文調
で田舎の立場を主張しているが、淡々
たる内にはのほのとした読後感の湧く
あたり無理のない、女性らしい心配り
を以て筆が連ねられている。私の求めた
男と共に奇巧小説陣の双璧であろう。

あるマゾヒストの手帖から……
……毎号のことから、古今東西を問わず
文獻を渉猟し一字一句もゆるがせにせ
ず、忠実に訳出せられた珠玉の文字で
ある。筆者の研究の深さには頭が下る
これ亦、残虐なる女性達、海外サディ
ズム雑誌、切腹研究夜話と共に奇巧の
文獻的価値を端的に高めているもので
あろう。

論文に愛蔵讀美論があるが、仲々面
白い、突込んだ理論、共鳴する点は多
々あるが、読後、何か我田引水に過ぎ
る感無きにしもあらず、と思うのは小
生だけか。

特に本号は懸賞原稿の入選発表があ
り、読者として期待に胸がふくらむが
編集部は、サドの本領を發揮して
か、二席だけしか発表してくれてない
小説軍作家……反転反転、くわ

て蒐集しむすかしい理論を抜きにして
世相の反映する処を眺めて来ましたが
時代感覚のすれは遺憾ながら否定する
訳には行きませんでした。

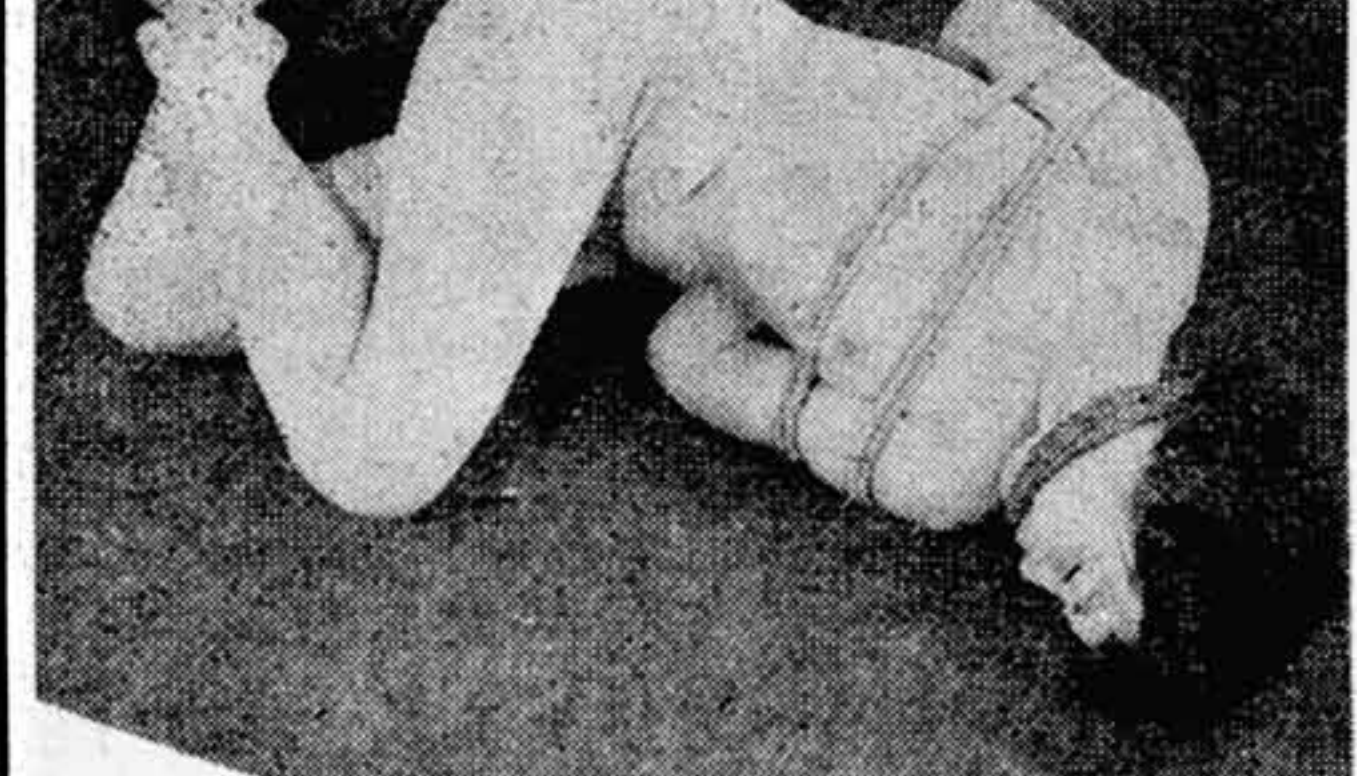
けれども奇巧に発表若くは告白され
ている人の中にキモノを中心とするも
のが依然として残っているのに驚くと
同時に反面意見を強める者であります
私はこゝで腰巻を以てパンティを抑圧
しようとは思つておりませんが假りに
今の中老年層を代表するとしたら伝統
的な和装論者に賛意を表しその階層内
での論議に花を咲かせることでしよ
うとしたことは読者のおのの好む処
に依つてそれぞれに分野で肯否を論ず
るべきであつた、一つしかない奇巧
を全面的に左右する事は一考を要する
問題ではないでしょうか。私はカメラ
を通して特にカラーフィルムで撮つた
キモノの美しさ、しかもそれが豊満な
女性の肉体を緊縛し客観的にも心理的
にも又行われんとする動作に呼応して
あらゆる身体線の線から或は構成される
複写体から妖しいまでも男性側の脳底
に妖氣を押しつけて止まない或る種の

ものにその分析はさて置き深き讃嘆味
を感じざるを得ません。

それから先きの論議は別として現実
に許された範囲内での完成された複
写物、絵画は総じてカメラ技術、印刷
技術などによつて私達の眼に觸れるの
ですから客観的に見た腰巻が純美学的
に考慮されたものからほど遠いもので
あるとしたら責めらるべきは一切の技
術的措置に在つて腰巻そのものでない
筈です。私は新聞雑誌に発表される小
説に附随する挿し絵を尊重しその分類
と分析を暇に任かせてやつております
が画題にせよ筆法にせよ執筆者の個性
が強く現われていて後輩諸氏のイミテ
ーションこそあれいわゆる画伯そのも
の、オリジナリティは少しも変異しな
いことに驚いている次第ですがその組
上に上る腰巻はそれこそ百花繚乱誠に
多種多様であります。作画的あり自然
的あり、若し高度の印刷技術を以て表
現せんかその視野の広い事に眼を見張
る許りです。これに配するに長襦袢を
以てし訪問着、お召帯、伊達巻、帯揚
げ、帯締め、蹴出し、足袋などを見え

るとしたら肉体を中核とする美術品が
忽然として私達の前にその艶姿を再現
する段取りになる訳ですがこれをパ
ンティまで押し進めるとしたら勢い完
成美から乱成美？に持つて行かねばな
りません。こゝに最少限度の喰い止め
策として腰巻が登場する訳であります。

ですから和装美の脱衣過程
にある最大限が腰巻に在ると
したならその腰巻を最高度に表
現するのが和装讀美論者の主
眼でなくてはならないですが
この認識がたゞ単に絵画的観
賞と鑑賞がないと云ふことに
よつて輕視されるのは誠に残
念に思います。オーソクロー
ムフィルムで撮したら黒一色
に潰れハイライトもないフラ
ットなそれこそ某氏の云われ
る股間を露う汚れた布に過ぎ
ないでしょう。



モチ肌に細目を喰ひます。横抱きに向を交え、君江は、事務的に鈴子の靴を脱ぎ、ズボースを脱がす間も待ち切れぬ、全身モチ肌の觸覚に僕の口は鈴子の唇と全部を噛みしめ、舌は吸込んで、舌をモチ肌の味、細目の觸覚以外は消滅して終い、舌は鈴子の味。

君江はそばに居れば、あとの二人の陳列品の前でも……と云う線までギリギリのところ。

さて君江の番になると、君江の願いで、鈴子の太く柔かそうな腓脛を真ん中にして照子、正子の両手を両側に引付けて揃いの制服の三人、同じ高小手首縄、壁面に向かって立たず踵足姿の六つの味覚を目で味いつつ、

先ず君江へのサーブスキスは至極平凡型、椅子の上へ横抱にして、再び君江は僕の首玉へ両手をからませて来て僕の肩へあごを乗せて一息つく、と僕の耳もとで、

「今日は縄、かんにんして下さったのネエ……」

「あとであの三人に仕返しさせてやる

んだ！」

「残酷ネエ、勘忍して頂戴よ」と体をゆすつて切なさにもたえて甘えて来る本能猫の君江の体は相当重たい。頬を彼女の方からすり寄せて来ると、もう何かうたい出し、舌を彼女、壁面に立たされて、三人娘の立縛、責に視覚を味わっている僕に、鈴江が君江のその気配に両脇の二人を肩先で小突く姿、申し合した様に三人の肩は細目のためにタルマ並べ式にゆするだけ……クスクスツと首を縮める照子の茶目ツキ。可憐型の正子は次第に唇がしさを増す型。

そうすると、シラスのが僕の責め方の一つ、君江の両手を掴むと素早く腰縄一発、前のテーブルにドンと腰掛けさす草履を振り落して、白足袋もぬがす、ハンカチで両足首も一巻で縛り合す。と、ツツと立つて三人の方へ、三人共こちら向けて壁にビツタリと押付けて、両脇の照子と正子の後首を持つて鈴子の顔に引寄せると、申し合した様に背丈揃いの三つの顔がビツタリと引付く、そして又後頭部を壁に押

付けると、背中中の縛り手のためガクツとあごを上げて、喉の細目を見せ仰向いて唇を三ツ揃えて三人同様に目を閉じる。

要するにここに紹介するハモニカキツスの二ツである。

近頃流行のブリックアイスクリーム味の味ではないが、チュアツ、チュアツとすべらす唇から唇へ、チュツチュツと抜く舌の早技、三ツの味が別々に充てられる様になるのは一人前。

僕の唇を阻まず様に両手で引く頬に力を入れて、三人の唇を半円型に引き寄せ鈴子の頭を膝押しし、頂点として僕の顔を左右に軽く動かし、ハモニカ、ギアキツスで、ガツガツ、ガクガクギンギン、とハモニカの速度をゆるめて仕上の舌先。

次に僕の事務室であるが、この三ツ引出し、腰高両袖、マガホニ色の大机クツション廻転椅子の僕の横、このテーブルの上へ腰掛けさせた娘、それこそ一々発表する暇もないのでそのポーズだけ、三書いて見る。

百人一色、間違いないのは四季を通

じて素足にして乗せる事、ブラリと垂れた膝から下、爪先までを目の前にして腰掛けつつ弄る事である、唇、腓、足の弄り責。太いの細いの、色がどうの、大きい、何の、と言葉責。ひねり責、なめ責、はては当然縛り責。

その中でも正月元旦、秘書松本の美しく上品に着飾った晴着姿を乗せ、白足袋を脱がして両足首を縛り裾を割つた時、何時もなら黙って居ても自分で後手に両手を廻す彼女も、さすが「勘忍」と裾を押えたのは忘れられぬ情緒の一つ。

次に日常茶飯事的な責で一貫したのに、(ウ)初手あり。

工場に働く娘、十八位でもう充分な女である。据膳喰わぬは男の恥、と云うが、この初手僕が十三の工場の秋口の五時過、唯一人で経理査察をしていると、その事務所へ顔を出した初子、京風美人のノツペリ一重瞼、ツンモリ鼻で小白い肌……

途端にペロリと舌を出して逃げ出す、全く低級な感情で一種の怒りもあり顔こそ笑っているが、「バカッ」と

ボクの責め方

(三)

宝塚二三夫

時は、春先から初夏迄、初秋から紅葉まで、ここに並べる日常茶飯事的なコスチュームと責。

近く僕の手で仕入れて多美子の館で勤めさす予定の末子、年の割にスクスクと伸びた四肢。早朝のコーヒーを君江の食堂へ、例の予約室、森閑としたサロン、大きく鳴るチークのドア、そして銀盆片手にした君江の水色

の事務服に和装白足袋草履の全くに事務的な姿、そして、その扉の中へ押出す様に片手で突出した末子、勿論細目を受けた姿と云つても本縄首掛ではない腰縄であるが……、紺地に白衿のユニフォーム、スラリと伸びた唇を自分自身みづめる様にうづむいて引立てられて来る末子の姿、テーブルのそばまで来ると君江は、

「社長さんの事なら！」

「どうするつてんだい！」

「お株のリンチ、はだしにしてそとへほり出せ——でせう、フフ……」

次にこの食堂の話も一つ、

秋、夕六時の業務終了後。本食堂・君江・照子・正子・鈴子・スピードのためバントタイム式に片付ける、壁面に大きく取付けた鏡付の飾り棚の両脇

麻縄で、高小手、首縄の本縛りである。十米以上も離れたテーブルに鈴子をひざの上にさせて、その飾りもののような二人を眺める僕。鈴子を後手にねじ上げて、モチ肌の觸覚に酔つて両手首を全く筋肉の動き一杯まで首筋へ突上げて……、そばに立つて縄を持つ君江に緊縛をうながす。

君江は、馴れた手付よろしく鈴子の



末子同様給仕制服のまま、照子と正子一采程の間隔をおいてコンクリート床の上に正坐させられている、二人共こちらを向いて丸出した尻の膝小僧を自分で眺める様に俯向いて、そのそばに脱がされたチヨコ色の靴と香下が置いてある。

両手はタオルやクロスの手物用の